

天草家保通信平成27年12月号

〒863-0002 天草市本渡町本戸馬場1706-3
電話番号 0969-22-3668 FAX番号 0969-24-4393
ホームページアドレス <http://www.pref.kumamo.jp/site/amakusa-1219>
電子メールアドレス amakusakaho@pref.kumamoto.lg.jp



冬季、特に問題となる牛呼吸器病症状候群を予防しましょう！

- 牛呼吸器病症状候群（BRDC）：哺乳期（生後1ヶ月）から育成中期（生後約6ヶ月）の子牛が最も発生率の高い疾病で、子牛下痢症と同様に治療費・増体及び事故率の悪化で養牛農家の経営を圧迫します。症状としては、耳垂れ、鼻水、発熱、呼吸困難（発咳・努力性呼吸）、元気消失、頭部の傾け等が挙げられます。早期発見及び対応が必要ですが、治療には費用が掛かり、罹患牛が病原体を農場内に拡散させるので、予防が最も重要です。

牛呼吸器病症状候群の予防対策（=飼養衛生管理基準の遵守）

子牛は様々な**ストレス**により、免疫低下し、常在する病原体により日和見感染や侵入したウイルス・細菌により牛呼吸器病症状候群発生に至ります。

【飼育環境の改善及び牛の免疫力の強化】

- 特に重要なことは、**敷料の管理と飼育密度・換気**です。糞尿を含む敷料から発生するアンモニアガスにより、呼吸器の粘膜がダメージを受け、呼吸器病に罹りやすくなるので敷料は頻繁に交換して下さい。注意点として過換気によって直接寒風が当たることは逆に子牛にストレスを与えてしまいますので、短時間で数回換気するのが良いです。
- 生後2ヶ月程度までの子牛は特に寒さに弱いので、子牛用のジャケット、吊り下げ式の電熱ヒーターで温めるとなお良いです。
- 出生後6時間以内に十分量の初乳を給与して下さい。
- 良質な飼料の適正量給与や生菌剤・ビタミン剤の投与等により消化器の機能を安定化させ、免疫力を高めると良いです。特に輸送や離乳等環境の変化でストレス状態にある子牛に重要です。
- 獣医師と相談し、呼吸器病ウイルス及び細菌に対する注射ワクチンや即効性のある鼻腔内ワクチン等を組み合わせることは予防対策に不可欠です。



【病原体の侵入防止】

- 病原体の農場への侵入は、牛の導入時が最も多いと考えられます。導入後はすぐに既存の牛群とは一緒にせず、1～2週間程度は隔離してよく観察して下さい。

通報

家畜の異常を発見された場合はご連絡ください。
天草家畜保健衛生所 電話番号0969-22-3668

毎月20日は「くまもと家畜防疫の日」



年末・年始の死亡牛の受付時間について

年 月 日(曜)		受付	
	23日(水)	休業(天皇誕生日)	
平成	24日(木)	午前8:30~11:30 午後1:00~3:00	
	25日(金)		
27年	26日(土)	午前8:30~11:30	休業
	27日(日)	休業	
12月	28日(月)	午前8:30~11:30 午後1:00~3:00	
	29日(火)		
	30日(水)	午前8:30~11:30	休業
	31日(木)	休業	
平成27年	1日(金)	休業	
	2日(土)		
	3日(日)		
1月	4日(月)	午前8:30~11:30 午後1:00~3:00	
	5日(火)		
	6日(水)		

- ・12月、1月は特別日程で業務を行いますので御協力をお願いします。
- ・へい死畜の搬入については、時間厳守でお願いします。

受付の問合せ連絡先 蛋白ミール公社 (TEL 0968-26-3766)

海外悪性伝染病発生状況

病名	発生地	発生日	畜種	型	
高病原性 鳥インフルエンザ	韓国	9月16日~10月27日	家禽(あひる、鶏)	H5N8	
		11月13~15日	あひる	H5N8	
	台湾	9月9日	あひる	H5N2	
		9月9日	あひる	H5N2	
		9月14日	がちょう	H5N8	
		10月14日	地鶏	H5N2	
		10月16日	あひる	H5N2	
		10月20日	地鶏	H5N2	
		11月16日	地鶏	H5N2	
		11月17日	地鶏	H5N2	
		11月23日	地鶏	H5N2	
		11月24日	あひる	H5N2	
	口蹄疫	モンゴル	10月2日	牛、羊、山羊	O型